

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I・III・V 】
2 実施対象者	学校名 : 小中台南小学校 対象学年 : 6学年 クラス(人数): 2組(48人)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科・保健体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	モデル校での実践等を通して、体育・保健体育の学習を充実させ、子供たちが、よりスポーツを好きになり、生涯にわたって運動に親しむ資質を育むこと、健康の保持増進のための実戦力の育成と体力の向上を図ることを目的とする。
5 取組内容	○ねらいを一本化し、「リーグ戦 やさしいルールでゲームを楽しむ」とした。 ○3時間扱いで行い、1時間目にオリエンテーションと試しのゲーム、2・3時間目に本格的にリーグ戦を行った。 ○ボールは30gと50gを使用、ネットは100cm、コートは片面3m×5mとした。1回での返球を禁止し、相手に返すまでに1回までバウンドすることを許容した。サービスのラインは特に設けず、アンダーハンドで行うようにした。
6 主な成果	○パラスポーツへの興味が高まった。 ○パラスポーツに対して、「障がいのある方のためのスポーツ」という意識から「誰でも同じように楽しめるスポーツ」という意識に変わってきた。 ○オリンピックへの興味が高まり、何らかの形で参加をしようとする意欲が芽生えた。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○全体でボール慣れの時間を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の合図で左右に動く。 ・シッティング鬼ごっこ ・1人が立って左右に投げて、もう1人が打ち返す。 <p>○円陣パスやラリー形式のパスゲームを行った。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○コートが小さく、手を伸ばせばボールに届いてしまうため、移動する姿があまり見られなかった。 ⇒コートが大きければよい。</p> <p>○通常のバレーボールで指導すべき、「落下地点に入り込む」動きの難易度が高い。</p> <p>○技能のレベルが上がってくると、一瞬腰を浮かせてもよいというルールに対して、トラブルになることが予想される。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○5年生のソフトバレーボールの学習後に、2時間程度で実施する。</p>